

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科		看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名		地域・在宅援助論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員		戸板 宏一郎	実務経験と その関連資格	医療機関で看護師としての臨床経験、看護基礎教育の経験を有する			
《授業科目における学習内容》							
事例を通して療養者の訪問看護過程を展開する。病態と症状、ADLとIADL、社会資源、本人と家族の思いの4つの観点からアセスメント、全体像へと展開することができる。							
《成績評価の方法と基準》							
提出物、筆記試験							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
地域療養を支えるケア(メディカ出版) 在宅療養を支える技術(メディカ出版)							
《授業外における学習方法》							
自宅での追加学習が必要となります。実習につながるよう、自主的に学習に取り組んでください。							
《履修に当たっての留意点》							
限られた時間内で演習を行います。追加学習をもとに、授業に集中して取り組んでください。							
授業の方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	訪問事例からの看護過程の展開ができる。①		テキスト・参考書	履修概要を事前に確認する。老年看護学等、既習した内容を確認する。	
		各コマにおける 授業予定	疾患についての基本的な情報を収集し、アセスメントを行う。				
第2回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	訪問事例からの看護過程の展開ができる。②		テキスト・参考書	履修概要を事前に確認する。老年看護学等、既習した内容を確認する。	
		各コマにおける 授業予定	症状が生活動作、生活自体に与える影響へつながるようにアセスメントを行う。				
第3回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	訪問事例からの看護過程の展開ができる。③		テキスト・参考書	履修概要を事前に確認する。老年看護学等、既習した内容を確認する。	
		各コマにおける 授業予定	病態、症状、生活状況に応じた社会資源についてアセスメントを行うことができる。				
第4回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	訪問事例からの看護過程の展開ができる。④		テキスト・参考書	履修概要を事前に確認する。老年看護学等、既習した内容を確認する。	
		各コマにおける 授業予定	病態、生活、社会資源から本人や家族の思いにつなげることができるようにアセスメントを行うことができる。				
第5回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	訪問事例からの看護過程の展開ができる。⑤		テキスト・参考書	履修概要を事前に確認する。老年看護学等、既習した内容を確認する。	
		各コマにおける 授業予定	紙上事例をもとに介護保険制度におけるケアマネジメントの目的とケアマネジメント過程を学習する				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 6 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	訪問事例からの看護過程の展開ができる。⑥	テキスト・参考書	履修概要を事前に確認 する。老年看護学等、既 習した内容を確認する。
		各コマに おける 授業予定	アセスメントした内容、つながりを全体像に整理してまとめること ができる。		
第 7 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	疾患や状態、状況に応じて、適切な訪問看護を選択することが できる。①	テキスト・参考書	履修概要を事前に確認 する。老年看護学等、既 習した内容を確認する。
		各コマに おける 授業予定	事例に基づいて必要な訪問看護サービスを考え、社会資源を 選択する。		
第 8 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	疾患や状態、状況に応じて、適切な訪問看護を選択することが できる。②	テキスト・参考書	履修概要を事前に確認 する。老年看護学等、既 習した内容を確認する。
		各コマに おける 授業予定	事例に基づいて必要な訪問看護サービスを考え、社会資源を 選択する。		